



健康と温泉フォーラム 第24回月例研究会のご案内

■日時 2011年5月24日(火)13:30~16:30

■会場 上野・東京文化会館4F 中会議室

東京都台東区上野公園5-45 TEL 03-3828-2111 JR 上野駅・公園口出て正面すぐです

■テーマ 人気の温泉地健康プログラムの取り組みー 増富温泉と村杉温泉のケーススタディ

■講師 小山芳久(山梨県みずがき山ふるさと振興財団増富の湯総支配人)

荒木善紀(新潟県村杉温泉長生館代表)

■ ケーススタディー1(山梨県増富温泉)

存続をかけて取り組まなくてはならないこと

都市部では高効率が進む中、厳しい現代社会の弊害が現れ、ビジネス環境下においても同様に人々の心と身体を蝕んでいます。

加えて、今回の大震災が起きたことで、「健康であらねばならぬ」という心理が日本中に浸透していくことでしょう。すでに増加傾向にある精神疾患の発生、生活習慣病の増加、手術や疾病治療者の不完全な社会復帰による再発等の不安を解決するための治療・リハビリテーション・体質改善を、「安全かつ安心な自然環境の中で身を置ける場」を見つけ、そこで過ごしたいという要望が高まっております。温泉郷を抱えた地域でその活性化を図りつつ「心と体を治したい」というニーズにどう応えるか、これからの生き残りをかけた課題です。

これからの基本方針を皆さんにお伝えし、ご意見を伺いたいと思います。

増富温泉からの報告

1. 今回の放射能風評とラジウム温泉のありかた
2. 増富流病気の定義
3. これまでの取り組み
4. 今後の構想

■ ケーススタディー2(新潟県村杉温泉)

存続をかけての取り組み夢の構想の実現に向けて

【村杉ラジウム温泉風景利用】

全国的に有名な温泉観光地、九州・由布院に先駆けること3年、現在の東京大学農学部教授で日本初の林学博士、本田静六先生が大正10年に村杉温泉を訪れ、ラジウム温泉と雄大な自然環境を活用した壮大なる計画【村杉ラジウム温泉風景利用策】を提案し、今に残されています。

本田静六博士は、当地は森林を有し土地の良好なる上にラジウムを多量に含む温泉を有しているのですから、将来極めて有望にして大いに発展すべき資質を有するものと考えました。「風景利用策」の内容は、実に詳細で具体的に示されている。土地利用の平面図まで添えられ、ラジウム温泉の効能の素晴らしさは勿論のこと、森林浴の効能や登山道、遊歩道の整備や有効活用、

展望台の設置、名物や土産物の提案まで描かれています。

今後の展開としては、100年近く実現出来なかった【夢の構想】を本田静六博士、現代版【村杉ラジウム温泉風景利用策】と位置づけ、開湯676年の歴史と日本トップレベルのラジウム含有量を誇る温泉と五頭連峰県立自然公園の雄大な自然環境の有効活用を図り、「環境」と「健康」をテーマとした温泉地創りを推進してまいります。

更に、当地は「ゆうきの里」として、全国的に有名な有機栽培地域でもあり、「食」に関しても安全・安心な健康食材がふんだんに揃っています。また、食と緑の交流センター「うらの森」では「情報発信館」・「体験学習館」・「ゆうきふれあい即売所」等の施設や「ブルーベリーの植栽」・「エゴマの栽培」・春は「菜の花」、秋は「コスモス」と観光協会や旅館組合、NPO法人、地域の住人達が参加して維持管理を行っています。今後も一般の皆様方に幅広く参加を呼びかけ、花畑の拡張や漢方等の栽培を進め、体験メニューの充実も含め【健康の里拠点整備事業】を推進し温泉街との一体感を深め、「温泉入浴＋自然探索」＋「ウォーキング・トレッキング」＋「体験」＋「健康食」＋「森林セラピー」＋「ラドンセラピー」等に産・学・医連携による「検診」＋「医療」を加え、様々なプログラムの策定を行い実践しております。

村杉温泉からの報告

1. 新潟県健康ビジネス連峰政策での取り組み
2. 新潟県健康ビジネス協議会での取り組み
3. 今後の構想

■参加費 健康と温泉フォーラム会員・地域活性学会会員 2,000 円

一般の方 3,000 円

(当日会場受付で承ります)

■お申し込み・お問い合わせ

NPO 法人健康と温泉フォーラム事務局まで E メールまたは FAX にてお申し込み下さい。

定員40名の申し込み順とさせていただきますので、お早めにお申し込みください。

E メール info@onsen-forum.jp FAX 03-3320-0586

NPO 法人健康と温泉フォーラム事務局宛	
参加申込書	第24回月例会(2011年5月24日(火))に出席します。
●お名前	●会社名

●住所	

●TEL	●E-mail